地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を深め、外に開かれた暮らし」「どんな時でも誇りや尊厳のある暮らし」「みんなと仲良く楽しめる暮らし」「ゆったりとして穏やかな安らぎのある暮らし」「自分でやれた達成感の喜び」という理念を掲げ、日々取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。またミーティング、行事・日常のケアの中で確認・振り返りを行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内数ヶ所に掲示を行っており、ご家族には面会や行事等を通じて伝えている。また地域交流センターでの催し等の際、理念や日常の実践をお話ししている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に屋外の掃除や散歩の際、挨拶や声掛けを行っている。また隣の住民の方よりしばしば手作りおやつ、野菜等の差し入れをいただき、お話しをしていただく事もある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏の盆踊り大会には、地域の方々に参加を呼びかけると共に、利用者・職員も積極的に参加している。また　近隣に当事業所OBが住まれている為、その方を通じ自治会等へ声をかけてもらっている。他に　地域交流センターでの介護予防事業（リハビリ体操等）に参加している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護予防サービスセンター（地域包括支援センターのサブセンター）との連携により、併設の地域交流センターでの介護予防教室、また民生委員の方々の要望・相談をうけている。また　ボランティア・介護実習生等を　積極的に受け入れ、人材育成の貢献と共に　認知症ケアに関する啓発に努めている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員にて、事業の自己評価及び　人事考課に取り組み、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティング等で報告し、改善に向けて具体案等協議している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価の内容説明・外部評価の結果報告・日々の取り組み　実践等の報告を行い、参加者の意見を組み入れ、会議を通じて　サービス向上に努めるようにしている。	○	今後　地域住民・行政職員の方々へ参加を呼びかけていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大牟田市が企画する『あんしん介護相談員　意見交換会』や『運営推進会議　意見交換会』（大牟田市内に所在するグループホームを対象とした意見交換会）に積極的に参加し、市町村並びに事業所との連携を　図っている。その他　大牟田市の研修会、また　認知症ケア研究会を通じて交流する機会があり、協働で　サービスの向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』のマニュアルを作成しており、職員で　学習している。 園内に『成年後見制度』についての掲示を行っている。	○	マニュアルは作成しているものの、全職員が　その内容を熟知できていないのが現状である為、制度の理解により家族等へ啓発していきたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	大牟田市の『高齢者虐待防止マニュアル』を参照し、職員全員で　研修・学習会を行っている。また　日常の申し送りや、ミーティング時に　職員間で話し合い、虐待防止の徹底に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に「入居契約書」「重要事項説明書」を　ご家族、可能であればご本人と　一緒に時間をかけて説明を行っている。利用者の状態変化により　契約解除になる場合は、ご家族等に　その後を含めた方針等　相談に応じ、十分な理解と納得のいく説明を心がけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あんしん介護相談員の方の訪問の際、利用者の方の思いを聞いていただくようにしている。また　ボランティアや実習生等の受け入れも多く、外部の方と接触する機会に　話を聞いていただく。	○	利用者の意見・不満等があった場合、職員の申し送りやミーティング時に話し合い　改善するよう努めているが、口頭のみとなっているため、今後　記録をとるようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた際などに、日常の生活の様子等　お話している。また　健康面は　状況変化の際、すぐに電話連絡して状態をお伝えしている。金銭管理の状況も　出納帳に記載しており、ご家族への提示の上　サインをいただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケア・プラン作成時・モニタリング時・面会の際、いつでも　何でも話していただけるような　雰囲気作り・声掛けに努めている。運営推進会議に　家族代表に参加してもらい、意見を求めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から各職員とのコミニケーションを　図るよう心がけ、また　月一回以上　主任職員との個別面談の実施並びに　実務的会議の報告により　意見を聴くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活を支える事のできるよう　人員の確保に努め、柔軟な対応ができるように配慮している。なお　併設施設にて、余剰の職員数を確保することにより、必要な場合の応援体制を　確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の適性を見極め、極力　固定した配置により、利用者及びその家族への　信頼関係を構築できるように　努めている。なお　移動や退職がやむを得ない場合には、可能な範囲で　引継ぎ期間を設け、利用者等にも混乱や迷惑のかからぬようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあったては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集は　原則として、ハローワークを通じて行うようにしており、性別や年齢に関しては　不問である。採用についても　同様であり、適性や労働条件の同意等により決めている。また　就業規則に基づき、労働・社会保険への加入や各種手当て等を　保証している。なお　人事考課により　生き生きと働け、能力発揮できるように努めている。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入居者に対する人権を　尊重し得るため、社会保険労務士を講師として、リスクマネージメントをテーマに 「利用者の権利侵害防止」に関する内容に触れ、人権教育を行った。また事業者内に　人権に関するマニュアルを整備し、注意喚起している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内外の研修参加による　スキルアップは勿論のこと、人事考課制度の導入により　施設が期待する方向性を整える事で、全員が一丸となり　職務遂行できるように配慮している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市等が企画する「あんしん介護相談員意見交換会や「運営推進会議意見交換会」他　外部研修に参加することで、地域の同業者との交流の機会を持つようにしている。また　併設事業所と連携の上、ネットワーク作りに努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常のコミニケーションは勿論のこと、随時　職員との面談を通じて　職員のストレスヘルスに　配慮している。また　管理者以外にも、併設施設に所属する同僚との　実務的なネットワークにより、抱え込みを防止できるように配慮している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課により、やりがいのある職場作りに努めている。また運営者も利用者や職員に対して、同じ目線でコミニケーションを　はかるように心がけており、喜怒哀楽を　共感している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に必ず事前面談を行い、ご本人の話を傾聴し、生活状況・状態の把握に努めている。また少しでも入居当初の不安、混乱を緩和する為、馴染みの関係を築けるよう心がけている。なお必要があれば、居宅介護支援事業所の　担当ケアマネージャーに要請して、意見を求めたり　関わってもらう事もある。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでのご家族の悩みや苦労をまずじっくりと聞くようにしている。その上で今後の支援サービス等を話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学時に　ご本人・家族の思いや状況を確認し、その時点で何が必要なのかを見極め、場合によっては他のサービス利用の提案等を行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に　ご本人やご家族に見学していただいたり、こちらから事前訪問を行ったりして、少しでも職員や他の利用者と馴染みの関係を築けるようにしている。やむを得ず　すぐに入居される場合は、ご家族やそれまで関わった方々に来ていただいて、少しでも不安が軽減できるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活を一緒に過ごす中で、お互い冗談を言って笑い合ったり、テレビを観ながら感動して泣いたり、得意分野を発揮されて驚いたり・・・と喜怒哀楽を共にしている。またお互いにいたわり、ねぎらい・励ましの言葉をかけ合っている。		
30	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会を通じて日々の様子等を報告しており、その際ご家族の思い、希望等に耳を傾けるよう努めている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでのご家族の状況を鑑みながらも、入居後も定期的な面会や連絡をしていただくようにお伝えする。また認知症について理解をしていただく等、いろいろな働きかけを行い、関係が継続するよう努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居された際、職員にてケア・カンファレンス等を行い、それまでの暮らしぶり・情報を共有している。その上で馴染みの場所や　お店に立ち寄ったり、知人・近所の面会に来ていただく等の支援をしている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の様子から全ての職員がご利用者の方々の関係は把握できている。また、関係性が悪化した場合等ミーティングにて対応策等話し合うようにしている。（職員が関与せずとも『お互いを支え合う』関係　が自然と構築されているようである。）		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後入院された方々のお見舞いをしたり、退居後特養入所の方のご家族が　遊びに来られたりした事もある。サービス終了時、本人やご家族には、いつでも立ち寄っていただくよう必ずお声をかけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話・仕草より本人の『したい事、してみたい事、したくない事、してもらいたくない事』を職員が読み取り・記録し、ミーティング等にて話し合っている。職員は「その時」の思いを大切にするよう心がけている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	去年よりセンター方式シートを導入し、活用している。ご本人・ご家族等より聴取した情報をまとめ記載するようにしている。	○	センター方式シートについて、職員への浸透が　不十分であるため、今後　研修・学習会を行っていく。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	『その日』『その時』の心身状態を見逃さないよう　日々の記録をとったり、申し送り・ミーティングにて　ケア・カンファレンスを行っている。それをセンター方式にまとめ、利用者　お一人お一人の　生活パターンやリズムを把握するよう努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントから抽出される　生活課題に加えて　日常の関わりの中で、ご本人・ご家族の意向を伺い　それをミーティング時やケア・カンファレンス時に　職員間で話し合い　ケア・プランに反映させている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2 ～3ヶ月毎に　モニタリングを行っているが、状態・状況変化が生じた場合は　随時カンファレンスを行い、見直し・修正をしている。場合によっては、主治医に　アドバイス・意見をいただく事もある。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「介護記録表」「日常生活記録表」等を作成し、個人別に　記録を行っており、また会議等により　職員間で情報を共有している。職員は　勤務時、記録や申し送りノートを　必ず参照するようにしている。それらの記録をもとに、ケアプランのアセスメント・モニタリングに活かしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事面・入浴時間・本人の馴染みの場所への　外出支援等に対し、柔軟な対応を　行っている。また　定期・不意の病院受診は　個別にかかりつけが異なる為、通院の送迎支援等行っている。	○	公民館・図書館等　地域の資源に出かける機会を　さらに増やしていきたい。警察等への　協力要請等も　働きかけるようにしたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	あんしん介護相談員・ボランティアや介護実習生・高校・中学生等の訪問を　積極的に受け入れている。民生委員の方には、運営推進会議等に参加していただいている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問　理・美容サービスの利用をしている。他に　地域交流センターにおいて、介護予防・相談センター（地域包括支援センターのサブセンター）主催による　介護予防事業（リハビリ体操等）に参加し、地域住民の方々との交流を　図っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議では、介護予防・相談センター（地域包括支援センターのサブセンター）へ参加を要請している。	○	今後　成年後見制度等　必要と思われる利用者に対して地域包括支援センターと協力して利用できるよう　連携を図っていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の　希望・要望により、かかりつけ医を決定している。また　診療科目により、複数の医療機関からの　協力体制を確保している。受診介助・通院介助においては　ご家族　もしくは事業所が行う場合でも、必要な情報を提供できるように努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の　いらしゃる医療機関への受診を行っている。また　何かあればすぐに電話にて、指示や　助言をいただいている。今年は　認知症専門医に対し、認知症ケアの講師要請を行い　勉強会を行った。	○	今後も　研修・学習会を継続し、家族や地域住民の方々をお招きして行っていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が　常勤・非常勤合わせて　2名配置しており、常に利用者の　健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また　併設施設の看護職員に　処置等お願いする事もある。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された医療機関の医師・看護師と　密に連絡をとったり、職員が度々　面会に行ったりしている。また　家族とも情報交換をしながら　回復状況等　速やかな退院支援に結びつけている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態変化に合わせ、その都度　ご本人・ご家族・主治医と　話し合う機会をもっている。　また　モニタリング時等事業所が対応し得る最大のケアについて　ご本人・ご家族へ説明している。	○	ターミナルケアについての研修・学習を　職員はもとより今後　ご家族とも一緒に行っていきたいと思っている。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日ごろより　ミーティング・勉強会の中で、緊急時の対応等を職員間で話し合っている。かかりつけ医・その他　協力医療機関とも　連携を図っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去先の関係者を　情報交換（アセスメント・ケアプラン・支援状況等）を行う。馴染みの職員が　機会を作り、訪問を行ったりしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に掲げている「どんな時でも誇りや尊厳のある暮らし」を念頭に置き、日常の申し送りやミーティングにおいて、振り返り等を行い　意識向上に努めている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の利用者に合わせた声掛けを行っている。また日常場面において、選べる方には洋服を　選んでいただいたり、したい事・やりたい事の　意志決定を促すようにしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分、体調をよく把握したうえで、個々のペースに合わせ、本人の気持ちを尊重しながら行っている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	夏祭りにて法被や浴衣を着用していただいたり、行事や外出の際は化粧やおしゃれを楽しんでいただくようにしている。理容は出張サービス店を利用させてもらっている。	○	利用者の馴染みの理・美容店を利用できるよう支援していきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	園内で利用者と収穫した野菜等（トマト、キュウリ、ネギ、水菜等）を季節により使用している。また日常の食事において、職員と利用者が同じテーブルにて　同じ食事をする。準備、盛り付け、片づけ等　出来る所を一緒に行えるよう支援している。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事等の折、少量飲まれる程度で　嗜好される方はいない。飲み物やおやつは時折複数種類を用意して、ご本人に選んでいただいたり、昔懐かしいおやつを手作りしたりしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	申し送りやミーティングにて、個々の排泄パターンを職員がチェックし、その状況に応じてリハビリパンツ、尿取りパット等オムツの使用を検討している。日中、夜間必要な方には　定時のトイレ誘導等を行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の利用者の生活パターンを考慮し、入浴は基本的に毎日行っており、その時のご本人の希望を確認して　入っていただいている。また朝風呂、菖蒲湯、柚子湯等　季節に応じた入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の様子等の申し送りを夜勤者に行う等、職員間の情報伝達を密にしている。また寝付けない方がいた場合、温かい飲み物を飲みながら話をしたり、一緒にテレビ・ビデオを観る等　臨機応変に対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	普段の洗濯、掃除、食事等、家事場面においてそれぞれ得意だったり、出来るところをやっていただくようお願いし、最後に感謝の言葉を伝えるよう心がけている。また　ドライブや外出等にて気分転換していただくよう努めている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は家族・職員間で話し合い、少額を所持してもらう方が数名おられたが、紛失が相次いだり、妄想により利用者間のトラブルが頻発したりとなった為、現在自己管理されている方がおられない。	○	買い物や外出時の支払い等の際、自分で払っていただけるようお金を手渡す等の工夫をしてみる。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩したり、外で昼食やおやつを食べる事もあり、時折思いつきで外出・ドライブへ出掛ける事もある。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年内行事の中に、日帰り温泉旅行や、年明けの神社参拝等を組み込んでいる。また上記に関連して、少し遠出の外出・ドライブを行う事もある。ご家族には行事等に参加していただくよう声掛けを行ったり、また外出・外泊の支援をしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば、いつでも自由に電話を使っていただいている。また遠方の家族の方等に電話していただけるよう　声掛けも行っている。暑中見舞いや年賀状など、ご家族の方々に出すよう支援を行っている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ウェルカムボードを設置したりと、いつでも・どなたでも　気軽に来ていただけるような雰囲気作りを心がけている。また　重要事項説明所により　面会時間もあるものの、その方の家族や状況に応じて柔軟に対応している。		
（4）安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の勉強会、研修会を通じて、またグループホーム独自に研修を行い、全ての職員において共有認識を図っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室・廊下等施錠はしておらず、利用者が外に出られた場合、さりげなく声をかけたり、一緒について行く等している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は複数の職員が何らかの作業をしながらも、常に全体の様子を把握するようにしている。夜間は1時間毎の巡視や、トイレ時の見守り等すぐに対応できる体制をとっている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	申し送り時やミーティング時等、職員間で話し合いを行い、物品によって保管場所を決めるようにしている。利用者の状況変化により、厳重に保管が必要な物・注意が必要な物等、分けている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設施設の研修、またグループホーム独自の勉強会等を行い、事故防止に努めている。日々のヒヤリハット等を記録し、職員間で対応、対策を話し合っている。	○	事故発生時の　対応マニュアルは　あるものの、事故防止の為の　マニュアルがない為、職員間で　検討の上　作成する。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員に　普通救急救命講習の受講を義務づけている。また、夜間帯の緊急対応においては　マニュアルを作成し、連絡方法等の掲示を行い　周知徹底を図っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設にて、年2回　実施される防災訓練に参加し、その際　避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を行っている。また、災害に備え、食料や飲料水、懐中電灯等　備蓄している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状況変化と共に起こりうる　リスクについて、その都度ご家族に電話したり、面会の際説明をしたりしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや　状態観察を行っている。また、食欲・排泄・顔色等　いつもと様子が違う場合、変化時の記録をつけており、場合によって医療機関への連絡・受診を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際、処方箋をファイリングし　職員が把握できるようにしている。薬の処方が変更されたり、本人の状態変化がある場合、職員間の記録連絡を密にし、医療機関へ連絡するようにしている。	○	すべての職員において　個々の服薬の内容・種類　副作用の把握に努めていく。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのよいメニュー作りに心がけている。食材に繊維質の多い物、乳製品を取り入れる工夫をしている。また散歩や体操等　体を動かす機会をつくる。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の状態に合わせ、見守り・声かけを行い　出来ない方には義歯洗浄介助を行う。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録表や、バイタルチェック表に　食事量・水分量の摂取状況を記録している。また、時折　併設施設の管理栄養士より、食事バランスやカロリー等のアドバイスをもらっている。	○	栄養士によるカロリー分析等を定期的に行い、専門知識を学んでいくようにしたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	併設施設の『感染症予防マニュアル』を活用して、職員全員で学習　並びに予防対策に努めている。インフルエンザの予防接種は利用者、職員共に毎年受けている。　毎月　全ての職員が　細菌検査を受ける事を　義務化している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に出掛け、新鮮な食材を調達するようにしている。まな板、包丁、布巾等はこまめに洗浄、漂白を行っている。台所・水回り・調理器具等も、清潔・衛生を保つよう努めている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には　ウェルカムボードを設置しており、建物周囲には花壇やプランターを置き、季節の花・植物を植えている。中庭やベランダ横花壇では野菜を栽培し、利用者・家族・職員共に　収穫を喜び楽しんでいる。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・廊下等は、季節感を感じていただくよう定期的に装りつけを変えている。日差しは遮光のロールカーテン・ブラインドにより調節している。リビングに隣接して　中庭が見える構造になっており、季節の植物を　観賞する事ができる。また　食事を作るにおい、昔懐かしい歌謡曲を流す等、五感を刺激する工夫に取りくんでいる。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のテーブルやソファーにて、気の合う方同士腰掛けられ、おしゃべりされたり、一緒にテレビを観られたりされている。玄関にはベンチ、廊下には椅子を設置し、一人でのんびり外を眺めたり、日向ぼっこをされたりするスペースを設けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、それまで馴染んだ家具、調度品を持ち込んでいただくようにしている。それぞれの利用者の方により異なり、鏡台、テレビ、冷蔵庫、タンス等持ち込まれている。ご家族の写真や手紙、絵を飾ってある方もいらっしゃる。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を見て、また利用者の方々にお尋ねしたり、様子を見ながら　エアコンの調節等行っている。また、職員が室内の臭い・空気のよどみ等、気付いた場合はこまめに換気を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が　ほぼバリアフリー様式になっており、室内の廊下・浴室・トイレ等に　手すりを設置している。 トイレや居室は　車椅子でも十分入れる入り口、広さとなっている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にネームボードを設置したり、トイレの場所をわかりやすくする為、立体的に見える物を貼布したりしている。また、利用者の状態が変わられ、混乱や失敗が生じた場合、ミーティング等にして話し合い、幾つかの方法を試みている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関・スロープ周囲・居室前等に、植木鉢やプランターにて花・植物を植え、職員と利用者で世話している。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

豊かな環境の中で、春夏秋冬を肌で感じていただけるよう　家族の協力のもとに、春は『花見・地域の伝統行事の参加』 夏は『盆踊り大会・花火大会』 秋は『日帰り温泉旅行・運動会・菊の花見』 冬は『クリスマス＆忘年会・餅つき・初詣・たき火』 といった行事に　力をいれて取り組んでいます。その他　新しく入居された方には、家族の一員として　歓迎会を行い、また　お一人お一人　の入居者の誕生会を開いています。また　併設である　特別養護老人ホーム・デイサービスの利用者の方々と、様々な合同行事（音楽リハビリ・豆まき・バイキング・誕生会）や　レクレーション等を　通じて　交流をはかり、理念に掲げる 『みんなと仲良く楽しめる暮らし』をしていただいています。 その他　市内　複数の協力医療機関との連携や、認知症専門医の指導・助言により、『いつでも安心して暮らせる生活』を支援しています。また、去年　開設した“地域交流センター　かめざき”では　地域の方々と一緒に　　リハビリ体操 を行ったり、お茶をしたりと “憩いの場”として　活用し、『地域に根ざした暮らし』を　大事にしています。